

### 長期間悩まされた両側上眼窩神経痛

症例 12 : 64 歳、女性。

- (主 訴) ◎ 30 年来の頭痛と数年来の両眼痛。
- (現 病 歴) ◎ 30 年来片頭痛があり、数年前から両眼痛も自覚するようになった。眼科、内科と転医を繰り返すが原因不明のまま鎮痛剤を服用している。今回は漢方治療を希望し当院を受診。
- (現 症) ◎眼科所見：両眼中等度の近視を認める他は、外眼部・前眼部・中間透光体・眼底に異常を認めない。両眼上眼窩に圧痛は著明。  
◎全身所見：小柄で色白、一見して虚証で寒証と思えるも、旅行・ダンスを好み積極的で陽証の面もある。肩こり(+)、便秘(+)、口渇(-)、流涙(+)、乏尿(+)、冷え症(++)、不眠(+)、尿失禁(+)。舌診では瘀血所見(-)、齒痕(-)。腹診では腹部軟弱で胃内停水(+)、任脈の水分穴に圧痛(+)、心下痞(+)、胸脇苦満(-)。
- (経 過) ◎水毒と裏寒があると考え、五苓散と附子理中湯を併用処方したところ、1 ヶ月後には頭痛、眼痛、流涙は著明に消失し、乏尿、尿失禁は少し軽快の様子が診られた。その後、附子理中湯

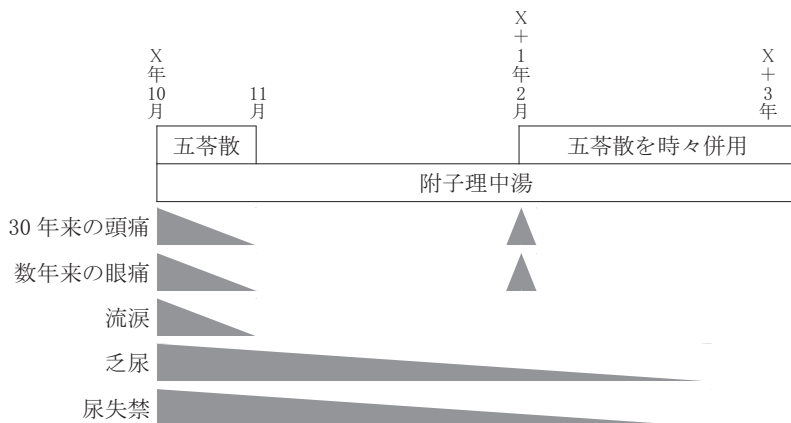


図 3-1 症例 12 の治療経過

を続服することで尿失禁は軽快していたが、3ヵ月後に頭痛、眼痛が再発したため、五苓散を併用し、眼痛、頭痛、尿失禁は消失した。体調が良いということで、附子理中湯を中心に時に五苓散を併用し続服中。→(図 3-1)

- (ま と め) ◎頭痛、眼痛には五苓散が頻用される。本症例では冷え症が強いことから附子理中湯を基本処方として続服としたが、真武湯との鑑別も必要であったと思われる。尿失禁には附子理中湯が奏功したものとする。

### 白内障だけでは説明できない眼痛／上眼窩神経痛

症例 13 : 77 歳、女性。

- (主 訴) ◎両眼痛。
- (現 病 歴) ◎数年前より両眼老人性白内障で点眼処方を受けている。時々両眼に眼痛を来すも原因は不明で治らないからと当院受診。
- (現 症) ◎眼科所見：両眼老人性白内障のため、視力は R(0.5) L(0.7) と低下している。その他は特に異常所見はない。両眼上眼窩に圧痛を認める。
- ◎全身所見：小柄で一見して虚証。頭痛(-)、眼痛の発症は状況・時間は不定。眩暈(-)、便秘(-)、胃腸症状(-)、乏尿(-)、夜間尿 1～2/回、膝痛あり、冷え症(+)、舌は湿って薄白苔(+)、腹力はやや軟で、腹直筋は緊張し臍下不仁(+)。
- (経 過) ◎八味地黄丸も考えたが、膝痛を重視し桂枝加朮附湯を処方した。服用1ヵ月位より膝痛が軽くなり、気がつけば眼痛も来さなくなっていた。1年ほど続服し、その後も不規則ではあるものの続服している。
- (ま と め) ◎各所見を鑑みて八味地黄丸にしてもよかったかもしれない。A 処方にするか B 処方にするかは常に悩むところではあるが、このような患者さんに A 処方と B 処方の効果を比較検討できないのが残念である。